



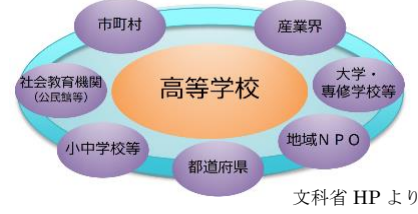
八丈 “やろごん プロジェクト！”

東京都立八丈高等学校 ～地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）～



1. 地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）とは

平成30年3月に公示された新しい高等学校学習指導要領を踏まえ、Society 5.0の社会を地域から分厚く支える人材の育成に向けた教育改革を推進するため、「経済財政運営と改革の基本方針2018（2018年6月15日閣議決定）」や「まち・ひと・しごと創生基本方針2018（2018年6月15日閣議決定）」に基づき、高等学校が自治体、高等教育機関、産業界等との協働によりコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組を推進します。（文部科学省HP）



2. 学校・地域の体制

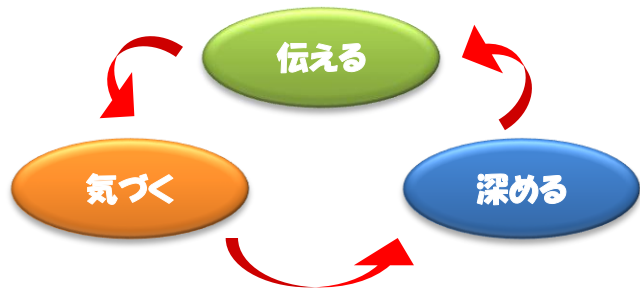
八丈高校グランドデザイン

- ① 目標の実現のために、自主的・主体的に学び続け、自分で道を切り拓ける人物
- ② 社会の変化に対応できる広い視野をもち、率先して動く自立した人物
- ③ 地域、歴史、自然、産業、伝統文化に対する深い理解をもち、誇りに思える人物

八丈学で育てたい生徒

- ① 八丈島に戻ってきて、地域を盛り上げる生徒
- ② 八丈島の外から、島の良さを発信する生徒

八丈高校の探究サイクル（共通言語）



地域協働事業の体制

東京都教育委員会・東京都立八丈高等学校（全日制） 令和4年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）

八丈やろごんプロジェクト～八丈島を支える人材を地域とともに育てる～

生徒アンケート結果より 現状1

- 『島に戻ってきたい』 58%
- 『島外で働きたい』 72.5%

※やろごんとは八丈言葉で「やろう」という意味

現状2 高校魅力化評価システムの結果

八丈島を支える人材

- 当事者意識の醸成と地域貢献
 - 高校生自身が当事者として八丈島の歴史・文化・産業を理解
 - 八丈島の価値と課題を発見、提案し、地域開発等の取組を実践

【高校入学前の土台】八丈町立小学校・中学校における取組

事業対象学科の生徒 (2022年4月1日時点)	学校全体の生徒数 (2022年4月1日時点)																																																		
<table border="1"> <tr><th>学科</th><th>1年</th><th>2年</th><th>3年</th><th>計</th></tr> <tr><td>普通科</td><td>41</td><td>39</td><td>40</td><td>120</td></tr> <tr><td>併合科</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>園芸科</td><td>5</td><td>2</td><td>1</td><td>8</td></tr> <tr><td>家政科</td><td>3</td><td>2</td><td>7</td><td>12</td></tr> </table>	学科	1年	2年	3年	計	普通科	41	39	40	120	併合科					園芸科	5	2	1	8	家政科	3	2	7	12	<table border="1"> <tr><th>学科</th><th>1年</th><th>2年</th><th>3年</th><th>計</th></tr> <tr><td>普通科</td><td>41</td><td>39</td><td>40</td><td>120</td></tr> <tr><td>併合科</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>園芸科</td><td>5</td><td>2</td><td>1</td><td>8</td></tr> <tr><td>家政科</td><td>3</td><td>2</td><td>7</td><td>12</td></tr> </table>	学科	1年	2年	3年	計	普通科	41	39	40	120	併合科					園芸科	5	2	1	8	家政科	3	2	7	12
学科	1年	2年	3年	計																																															
普通科	41	39	40	120																																															
併合科																																																			
園芸科	5	2	1	8																																															
家政科	3	2	7	12																																															
学科	1年	2年	3年	計																																															
普通科	41	39	40	120																																															
併合科																																																			
園芸科	5	2	1	8																																															
家政科	3	2	7	12																																															

運営指導委員会: 東京都教育委員会、八丈町教育委員会、長田商店、製菓やたけ、地域協働学習実施支援員、佐治、大瀬由里子、大澤明

島外コンソーシアム: 東京都立大学総合研究推進機構、東京都立産業技術大学院、東京都立第五商業高等学校、東京都立芝商業高等学校、東京都立立川高等学校、日本エコツーリズム協会フェロロジーカレンダー研究会、鳥取コミュニティ学会

カリキュラム開発等専門家: 帝京大学教育学部増達夫教授、島内コンソーシアム: 八丈町、東京都八丈支庁、東京都教育庁八丈出張所、八丈島空港ターミナルビル(株)、八丈植物公園ビジターセンター、東海汽船(株)、八丈島観光協会、ちよんこめ作業所、南海タイムス、八丈島エコツーガイド協会、八丈島文化協会、八丈高校PTA、八丈太鼓よされ会、八丈町商工会、移住定住者促進協議会、リードパークリゾート八丈島(株)、個人コンソーシアム(新規)

3. 探究活動の取組

(1) 八丈学Ⅰ（普通科1学年、学校設定科目1単位）

自然、歴史、文化、産業に関するレクチャー・フィールドワークを通して、八丈島に関する理解を深めるとともに、島の価値や課題を見出させるために、探究のサイクルを用いて探究の基礎学習を行う。また、フェノロジーカレンダーの作成を通して、八丈島の地域課題に気づかせる取組を実施する。3学期には、作成したフェノロジーカレンダーを活用して、発表活動及び都内高等学校との交流を行い、自己理解や地域の特性・課題に気づく力を育成する。

主な活動

- 1学期：八丈島の自然、歴史、文化、産業に関する地域の方からの講演・授業補助・フィールドワーク
- 2学期：フェノロジーカレンダー作成
- 3学期：フェノロジーカレンダー完成、成果発表交流会



授業の様子



令和3年度作成フェノロジーカレンダー

(2) 八丈学Ⅱ（普通科2年、総合的な探究の時間1単位）

地域の実態を踏まえたより現実的な探究学習を行い、解決策の提案を行う島民会議を実施する。1学期には、1年次に行った八丈島に関する基礎的な学びを基に、学びを深めるとともに、生徒の主権者意識を高めさせる工夫を行う。2学期には、他県のまちづくりシンポジウム等を参考に地域と学校が一体となって、八丈島の未来について考え、地域課題の解決策の提案の場として「島民会議」を開催する。3学期には、発表活動及び都内高等学校との交流を行い、自己理解や地域の特性・課題に気づく力をさらに育成する。

主な活動

- 1学期：探究の手法等を用いて、探究テーマの決定。フィールドワーク
- 2学期：フィールドワーク、プレ島民会議（中間発表）、島民会議
- 3学期：成果発表交流会、プレ個人探究



令和3年度島民会議の様子



令和4年度島民会議ポスター

(3) 八丈学Ⅲ（普通科3年、総合的な探究の時間1単位）

島民会議で出された課題や自己の進路を基に、個別に研究の実験やフィールドワークを行う。課題の実証や実現の可能性を具体的に検証する。個別探究課題の解決を図ることを通じて、自己の生き方や未来を考えることで、当事者意識を醸成し、課題発見・解決能力や将来設計能力を育成する。

主な活動

- 1学期：探究手法、進路から探究テーマの決定、中間報告会（併合科と合同）
- 2学期：個人探究活動、最終発表
- 3学期：研究紀要の作成



授業の様子



生徒の研究例

4. 成果と今後に向けて

(1) 成果

- ・生徒の主体性が増加した。
- ・八丈島の島民としての当事者意識が向上した。
- ・進路活動への取り組み時期が早くなった。

(2) 課題

八丈学Ⅰ～Ⅲの各探究活動における課題設定や調査方法など、探究を深めるより一層の工夫が必要である。

- 【八丈学Ⅰ】調べ学習の要素が大きいので、より探究を強める内容にする。
- 【八丈学Ⅱ】島民会議に至るまでに、ディスカッション等により課題を深める。
- 【八丈学Ⅲ】探究テーマが定まらず、進路活動により変更する生徒が複数いた。

(3) 今後に向けて

- ・全教員が探究活動に関わるカリキュラム作りと定期的な研修・各学年での報告会を実施する。
- ・八丈町全体が地域探究学習に関わる、コンソーシアムを構築する。
- ・校内研修を実施し、探究活動や本事業への教員間の共通認識を更に高めていく。
- ・地域協働学習実施支援員の定常的な雇用を確保する。
- ・八丈支庁、八丈町と連携し、八丈島の小学校、中学校、高校で系統的な探究学習をする。

5. 参考文献・URL

- (1) 文部科学省, 地域との協働による高等学校教育改革の推進, https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kaikaku/1407659.htm
- (2) 文部科学省, 地域との協働による高等学校教育改革推進事業, https://www.mext.go.jp/content/2022-0606-mxt_koukou_02-100002275-2.pdf

6. 謝辞

本事業において、文部科学省初等中等教育局参事官（高等学校担当）付高等学校教育改革推進係、東京都教育庁指導部高等学校教育指導課、帝京大学教育学部教育文化学科増達夫教授、運営指導委員として、東京都八丈町教育委員会茂木清教育長代理、林薫氏、長田商店長田隆弘氏、製菓やたけ大沢力氏、八丈町内外のコンソーシアムなど、多くの方のご理解・ご協力があり実施することができました。厚く感謝を申し上げます。